



指導案

劇で表現しよう

1 学習のねらい

劇で伝えたいメッセージは何かをはっきりとさせ、話のオチを工夫して台本を書く。
登場人物の感情を想像して、その人になりきって演技を楽しむ。

2 番組活用にあたって

劇作りは、子どもたちの大好きな学習活動の一つですが、「時間がかかる」「収集がつかない」などの理由で敬遠されがちな活動でもあります。確かに、子どもたちの作る劇は拙く、演技も自己満足で終わっているものがほとんどでしょう。でも、劇を作る過程には多くの学びが隠されています。

劇作りで大切なのは、「あしなさい」「こうしなさい」と教師が監督役にならないことです。教師が指示し始めたときに、『やらされている劇』になってしまうからです。助言したり、提案したりするというスタンスを保ち、子ども主体ということを忘れてはなりません。

番組では、台本作りのポイントと演じる時のポイントを挙げています。台本作りで大切なのは、「伝えたいことは何か」を見つけることです。サトルたちは林間学校での枕投げを題材としていますが、枕投げを通して何を伝えたいかを話し合っています。子どもの作る台本では、この部分が抜け落ちてしまうことが多いです。メッセージがはっきりすると、劇の落ちがはっきりしてきます。

一つの劇を仕上げるまでには、多くのトラブルが生じるでしょうが、できあがった喜びは格別です。どんなに拙い劇でも、どこかに良さがあるはず。その良さを見つけて価値づけることによって、他の人になりきる楽しさを味わわせてほしいと思います。他の人を演じることで、新たな自分を発見することにもなり、その楽しさが表現への自信につながります。

3 指導の流れ

① 劇を作ったことがありますか。

- ・台本を書いたことはないけれど、演じたことはある。
- ・お楽しみ会でやったけど、全然上手にできなかった。



② 番組を見て、劇作りのポイントを見つけよう。

1. 番組を視聴する。
2. 台本を作る時のポイントは何だろう。
 - ・見ている人に何を伝えたいのかを考えないといけないんだ。
 - ・伝えることがはっきりしていないと何をやっているか分からない劇になるのか。
 - ・「落ちを考える」って今まで考えたことなかったなあ。
3. 演じる時のポイントは何だろう。
 - ・感情を表現するなんて、考えたことなかったなあ。
 - ・同じ「どうしよう、困ったなあ。」を言うだけなのに、「てきぱき」「いらいら」「めそめそ」などの架空のもしもを入れるだけで、だいぶ違う感じになるのがおもしろいなあ。



③ 「どうしよう、困ったなあ」を感情を入れて、演じ分けてみよう。

1. 教師が「てきぱき」「いらいら」「めそめそ」「だらだら」「にやにや」など、指示を出す。
2. 子どもたちは、言われた感情を表すように「どうしよう、困ったなあ」を演じる。
3. お互いの演技を見合って楽しむ。